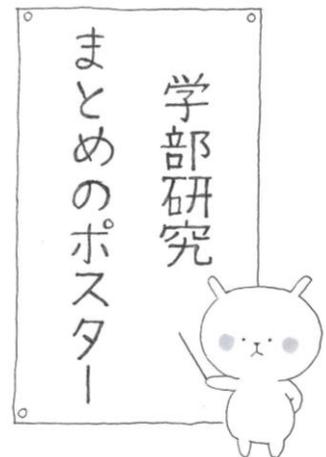


資料編

学 部 研 究
ま と め の
ポ ス タ ー





取組の概要

Table with 2 columns: 指導の形態及び指導内容, 実践数. Rows include 日常生活の指導 (0), 作業学習 (0), 生活単元学習 (9), 保健体育 (1), 自立活動 (0).



中学部2年生の実践

中学部においては、単元の指導に当たる教員10人の内、10人が実践した。実践の割合は100%である。単元シートを活用した実践数は10であった。実践した指導の形態や指導内容は表のとおりである。

研究授業

中学部3年生 生活単元学習 「修学旅行に行こう」

教育課程で示されている段階と個別の目標の段階の違いに気付いた実践です。



育成を目指す主な教科等の資質・能力

- ①【社会：中1：ア(イ)ア】家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。
②【社会：中1：イ(ア)ア】身近な公共施設や公共物の役割が分かること。
③【社会：中1：Cア(ア)】生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。
④【職業：中1：Aイウ】材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。
⑤【国語：中1：Aア】身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。
⑥【国語：中1：Aイ】話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。
⑦【社会：中1：ア(イ)イ】社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。
⑧【社会：中1：学び】身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

単元シートを活用した実践例

中学部2年生 生活単元学習 「夏を楽しく」

育成を目指す主な教科等の資質・能力

- ①【家庭：中2：Bオ(ア)】住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、快適な住まい方や、安全について理解し、実践する。
②【理科：中2：Bイ(ア)イ】身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の生長と季節の変化に着目して、それらに係りつけて調べる活動を通して、植物の生長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを身に付ける。
③【家庭：中2：Bオ(イ)】住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、季節の変化に合わせた快適な住まい方に気づき、工夫する。
④【理科：中2：Bイ(イ)】身近な動物や植物の変化について調べる中で、見出した疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現する。
⑤【社会：中2】社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養おうとする。
⑥【家庭：中2】家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を身に付けようとする。

Table with 4 columns: 個, 教科, 本単元における個別の目標, 評価. Rows A through K show various learning objectives and their evaluation results.

Table with 4 columns: 個, 教科, 本単元における個別の目標, 評価. Rows A through F show specific learning objectives for middle school students and their evaluation results.

中3の単元ですが、生徒の実態から単元を考えたら、「育成を目指す主な教科等の資質・能力」が全て中1段階になってしまいました。これでいいのかな？

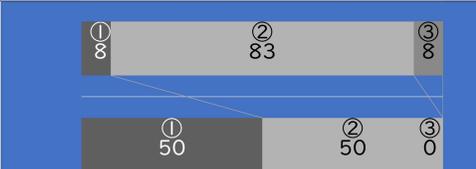


研究授業の取組については、左のQRコードにて動画による説明をしている。研究授業を通して、主に下記に示した4つの学びを得ることができた。

- ▷ 視点を焦点化した参観とワークショップ型事後検討会
▷ 資質・能力の育成を踏まえた単元の構成や学習内容
▷ 実践しての疑問の共有
▷ 生徒一人一人の実態に合わせた個別の目標と手立ての工夫

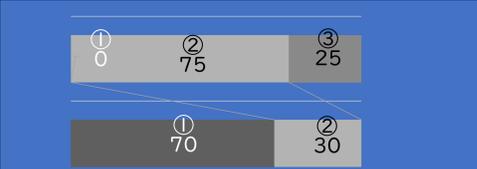
意識調査の結果と考察

2. 学習指導要領で示されている目標及び内容について、当該の段階と下の学年の段階の児童生徒が学習集団を形成している場合、それぞれの児童生徒の段階を踏まえて実践している。



【考察】前期に比べ後期は①の回答が42ポイント増え、③の回答がなくなった。このことから、生徒一人一人に応じた目標を踏まえて実践する意識が高まったと言える。

3. 学習集団を形成している児童生徒一人一人の目標や手立てを踏まえ、教員間で協働しながら学習内容を検討している。



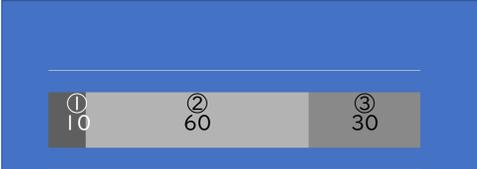
【考察】①の回答が0%から70%に、③の回答が25%から0%になった。生徒一人一人の目標や手立てを踏まえ、教員間で協働して学習内容を検討する意識が高まったと言える。

8. 単元シートを活用することに効果を感じている(後期のみ)。



【考察】①②を合わせた回答が80%だった。このことから、単元シートを活用することに効果を感じている教員が多いと言える。

9. 単元シートを作成することに負担を感じた(後期のみ)。



【考察】①②を合わせた回答が70%だった。このことから、単元シートの作成に負担を感じている教員が多いといえる。

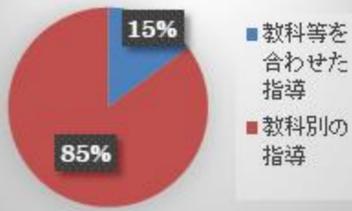
研究のまとめ

- 学習指導要領で示されている目標及び内容について小学部段階まで下ろして目標を設定するなど、全ての実践でそれぞれの生徒の段階をふまえた実践実践が行われた。
○生徒一人ひとりの目標や手立てを踏まえ、教員間で協働しながら学習内容を検討したり、単元の反省を共有したりすることができた。
▲シートを作成することに大きな負担を感じている教員よりも効果を感じている教員が多いものの、負担感を軽減する工夫は検討したい。



取組の概要

Table with 2 columns: 指導の形態及び指導内容, 実践数. Rows include 日常生活の指導 (0), 生活単元学習 (4), 作業学習 (0), 国語 (4), 社会 (3), 数学 (2), 理科 (2), 音楽 (3), 美術 (3), 保健体育 (5), 職業 (1), 家庭 (0), 自立活動 (0).



単元の指導に当たる教員27人の内、27人が実践した。実践の割合は教科等を合わせた指導が15%、教科別の指導が85%であった。

研究授業

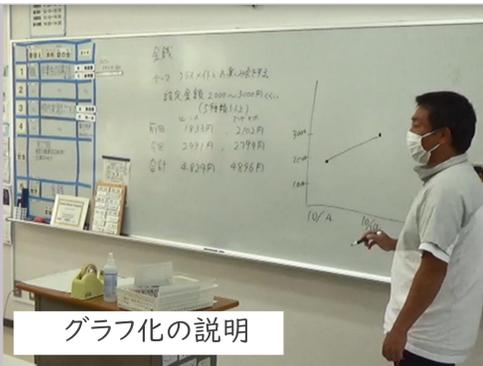
高等部2年生 C課程 数学 「金銭」(10月14日)

研究授業の取組については、左のQRコードにて動画による説明をしている。研究授業を通して、主に下記に示した四つの学びを得ることができた。

- 資質・能力の育成を踏まえた単元の構成や学習過程の工夫
視点を焦点化したワークショップ型検討会
自身の実践と照らし合わせながらの学び
育成を目指す資質能力と指導形態の関連



ペア学習の様子



グラフ化の説明

「育成を目指す資質・能力」

現行の学習指導要領

新しい学習指導要領

高等部数学1段階 「金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かる」
高等部数学2段階 「生活に必要な金銭や時計・暦などを工夫して使う」

「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」の四つの領域となった。
「金銭の価値や処理に親しむことについては、内容の取扱いで触れること」となり、「目標・内容」としてはなくなった。

金銭の価値や取り扱いについて、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の三つの領域を関連させて計画を検討し、実践した。

育成を目指す主な教科等の資質・能力

Table with 2 columns: 知, 思, 主. Rows include A数と計算, C変化と関係, Dデータの活用, and A数と計算. Each row contains detailed learning objectives.

▲育成を目指す資質・能力が増え、育成できたかどうかの確認が難しかった。

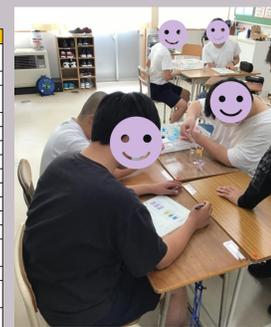
単元シートを活用した実践から一部紹介

高等部2年生 理科 「身のまわりの不思議」



学習到達度を意識した実践をすることができた。

Table with 4 columns: 単元, 教科, 本単元における個別の目標(2組), 評価. Rows list specific learning goals and evaluation results for students.



個別の目標に合わせて手分けして実験を行った。

高等部3年生 美術 「造形作品を考えよう」



育成を目指す資質・能力から単元の目標を明確にした実践をすることができた。

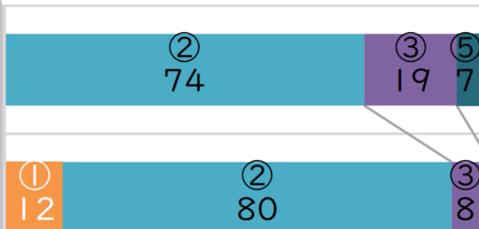
「育成を目指す資質・能力」「単元の目標」

Table with 2 columns: 育成を目指す主な教科等の資質・能力, 単元の目標. Rows list specific learning objectives and unit goals for art.

Table with 2 columns: 単元の目標. Rows list specific unit goals for art, such as understanding perspective and using materials.

意識調査の結果と考察

1. 単元の目標と、各教科等の育成を目指す資質・能力との関連を踏まえて実践している。



【考察】前期に比べ後期は①②の回答が18ポイント増えた。このことから、単元の目標と育成を目指す資質・能力との関連を踏まえた実践する意識が高まったと言える。

2. 学習指導要領で示されている目標及び内容について、当該の段階と下の学年の段階の児童生徒が学習集団を形成している場合、それぞれの児童生徒の段階を踏まえて実践している。



【考察】前期に比べ後期は①の回答が16ポイント増えた。このことから、日々の実践において、生徒一人一人に応じた目標をより意識することが増えたと言える。

8. 単元シートを活用することに効果を感じている(後期のみ)。



9. 単元シートを作成することに負担を感じた(後期のみ)。



【考察】設問1-8において①②の回答が52%であり、設問1-9において①②の回答が75%だった。このことから、単元シート活用における一定の効果は感じているが、作成における負担をより大きく感じているといえる。理由の一つとして、高等部では令和4年度から新しい学習指導要領が実施されるため、観点別目標・評価に慣れていないことが考えられる。

高等部研究のまとめ

- 高等部全員が単元シートを活用した授業実践することができた。
学習指導要領や教育課程を確認しながら各教科等の育成を目指す資質・能力と単元の関連を踏まえた計画を考えることができた。
教科等の育成を目指す資質・能力に対して効果的な指導の形態を考えることができた。
生徒一人一人の目標や手立てを考え、授業者間で共有することができた。
効果的な手段ではあるが、作成にかなり時間がかかる。
単元シートの個別の目標や評価と個別の指導計画を関連させることができたなら効率化を図ることができると考える。